

インフルエンザワクチン よくあるご質問

① 注射・フルミスト 共通

Q

いつ頃接種すればいいですか？効果はどれくらい続きますか？

流行期に入る前の10月～11月中が推奨されます。遅くとも12月中旬までに接種を済ませましょう。

抗体ができるまでに約2数週間必要とし、約半年は効果が持続されます。

Q

受験にあわせて一番いい時期は？

同じことになりますが、10月～11月を推奨しています。

受験生はシーズンを通して大切な時期です。早めに接種を済ませましょう。

受験日に合わせて自費でのタミフルの予防投与も行っております。事前にご相談ください。

★月曜日～土曜日の診療時間内 日曜不可★

当院での自費診療費、薬局さん合わせて約1万円程度です。

Q

毎年接種は必要ですか？

ワクチンの免疫は時間の経過とともに低下するため毎年接種しましょう。

Q

インフルエンザのワクチンの効果はありますか？

インフルエンザワクチンは、「接種したらインフルエンザにかからない」というものではありません。

しかし、インフルエンザの発症予防としての効果や、実際に発症した場合の重症化(痙攣・脳炎や脳症、重篤な肺炎など)を予防できることが国内の研究で報告されています。

毎年重い合併症により入院されるお子様が一定数いらっしゃいます。ワクチンを接種して重症化を防ぐ対策を取っておくことが重要です。

Q

風邪気味でも接種できますか？

熱がある時は接種できませんが、
多少の咳・鼻水程度であれば、お薬を飲んでいても接種可能です。

診察を受けて医師に相談しましょう。

Q

インフルエンザにかかったが、接種する意味はありますか？

あります。

ウイルスの型が複数あり、別の型への感染や重症化を防ぐために接種が推奨されます。

注射タイプの1回目を接種後にインフルエンザにかかった場合でも、2回目を接種しましょう。

② 注射タイプへの質問

Q 主な副反応は？

注射した部分の赤み、腫れ、痛みです。全身症状として微熱やだるさが出ることもあります。通常2～3日で治まります。

Q 卵アレルギーがあっても打てますか？

基本的に接種可能です。
重度の場合は医師に必ず相談してください。

Q 妊娠中や授乳中でも大丈夫？

注射タイプは接種可能です。
妊婦さんが接種することで、お腹の赤ちゃんを守る効果も期待できます。

③ フルミストへの質問

Q 接種した後すぐに鼻をかんだりしても大丈夫ですか？

問題ありません。
薬液はすぐに鼻の粘膜に付着して吸収されるため、直後に鼻をかんだり、くしゃみをしたりしても大丈夫です。

Q

主な副反応はなんですか？

鼻水・鼻づまり・のどの痛み、咳、軽度の発熱など、風邪に似た症状が出るがありますが、1週間程度でおさまります。
接種後1週間はインフルエンザの迅速検査が陽性になることがあります。

Q

鼻水・鼻づまり・鼻炎があっても打てますか？

軽い症状であればお薬を飲んでいても問題ありません。
重度の鼻づまりがある場合は、薬液が粘膜に届きにくいため延期か注射への変更が推奨されます。

Q

鼻血が出ましたが接種できますか？

接種時に止血していれば問題ありません。

Q

妊娠中でも大丈夫ですか？

フルミストは妊娠中接種できません。

Q

まわりの人にうつる可能性はありますか？

ウイルスは弱毒化されているため、健康な人にうつる可能性はほぼありません。ただし、同居家族に重い免疫不全の方がいる場合や乳児（6ヶ月未満）がいる場合は、接種後2週間ほど密接な接触を避けるか、注射タイプを選ぶことが推奨されます。

Q

アレルギーがあっても大丈夫ですか？

フルミストにはゼラチンが含まれているため、重度のゼラチンアレルギーがある方は接種できません。

卵アレルギーに関しては注射型と同様、軽度であれば接種可能です。重度の卵アレルギーの方は医師にご相談ください。

Q

喘息があっても大丈夫ですか？

喘息がある方は注射タイプのワクチンを推奨しています。

フルミストをご希望の方は、定期受診の際医師に相談しておきましょう。